
究極の銃士の伝説

遥平無双

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

究極の銃士の伝説

【Nコード】

N0239P

【作者名】

遥平無双

【あらすじ】

母が亡くなり、日本からフランスの田舎へ越してきた義平。

そこに来てから義平は剣術の稽古をします。

ところがある日、義平の家に黒い騎士が来て父が何処にいるかを聞かれ、家を調べることに……

最初の悲劇（前書き）

今回初めて投稿しました。まだまだ未熟者ですが、これからもがんばり投稿していきたいと思えます。

最初の悲劇

少年は銃士だった。

今は誰よりも強い。

少年には父も母もない。何時も一人であった。母は九年前に病気で亡くなった。

そして父はあの事件で死んだ。

少年は今でも恨んでいる。

この少年の名は、諸葛義平。以前は日本で暮らしていたが、今はフランスの田舎で父と共に暮らしている。

義平は田舎に来てから父と一緒に、剣術の稽古を毎日していた。

「良いか義平、剣術は単に人を斬るためのものではない。自分を守り、そして弱さに打ち勝つためのとても貴重な道具なのだ。だからそのことを忘れずに、稽古をするのだ」

「はい父上」

義平は一生懸命に、けれども希望に溢れながらも稽古にはげんでいた。

それに義平は父の事がとても好きであった。もちろん親であるが、教師、先輩、また友のような存在であった。

父は何時でも義平の味方だ。馬に蹴飛ばされて大怪我した時や、自信をすっかり無くした時でも義平を庇った。

たとえどんな時でもどんな事でも懸命に

だがこの後義平に悲劇が襲うが、そんな事すらまだ知らずに一生懸命父と稽古に励んでいた。

だがこれがきっかけで、義平のたった一つの幸せが消えてしまうのであった。

義平は本当に、本当にまだ何も知らなかったのである。

黒い騎士は早速、義平の家を調べ始めた。その頃、義平は再び剣術の稽古を一人でしていた。

父はその時、家の裏にある農園を耕していた。

「ふう、今日も良いのが採れた。んっ」

父が振り返ると一人の黒い騎士がいつの間にも農園にいた。

「久しぶりだな」

「何の用だ。勝手に入ってきて」

父は騎士を少し睨んでいた。

「少しそなたを試しに来た。まあ試すとはいえ簡単な事だ。私と剣術で勝負するだけだ」

そう言つて黒い騎士は剣を抜いた。一体、これでどうなるというのだ。

そして、父も剣を抜いた。

「ウオオオオオオオ」

その勢いで父は騎士に立ち向かった。

「ふん、雑魚いやつめ」

騎士は父が突進すると同時に思いっきり剣を振り回し父の剣をなぎ払った。

剣は少し遠くへ飛んだ。

剣先は父の首筋に近づいていく。

父の遺言

今まで剣術の稽古をしていた義平は父の悲鳴に気付き、

「父上、どうかしましたか」

返事は無い。

「可笑しいな」

義平はリビングに戻った。だがいない。

「可笑しいな。父上は何処に行っちゃったのかな。ひよつとして馬小屋」

義平は馬小屋に行った。だが父はいなかった。あるのは父と自分の馬だけだった。

「だとしたら、残るは農園だな」

義平は農園に行った。すると

「ウウッ」

よく見ると父は農園の端に苦しそうに倒れていた。

「父上、あの男がやったのですか」

義平は強く聞いた。すると父は

「ああそうだ。あいつは国王ハーツ様に仕えるリユービ枢機卿の親衛隊隊長ロシユブレスじゃ」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0239p/>

究極の銃士の伝説

2011年10月8日07時14分発行